

研究紀要・年報

# 縄文の森から

From JOMON NO MORI

第8号

《研究ノート》

古墳時代肝属平野における地下式横穴墓出土鉄器についての一考察  
新屋敷 久美子

南部九州における中世瓦質土器の蛍光X線分析  
黒木 梨絵

植物質資料からみた南九州  
―天神段遺跡を中心に―  
深川 祐子

全点ドット調査の有効性と問題点  
―1970年代から1990年代の調査を中心に―  
立神 倫史

宮ノ上遺跡の縄文時代後期前半の土器群について  
長野 眞一

大隅地域における古墳に関わる祭祀遺跡  
中村 耕治

郷土教育と考古学  
―相川日出雄の埋蔵文化財を活用した教育実践から学ぶこと―  
吉元 輝幸

《資料紹介》

南部九州における古代のカマドに関する覚え書き  
上床 眞

平成26年度 年報

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2015.10

# 『縄文の森から』 第8号 目次

---

---

## 《研究ノート》

古墳時代肝属平野における地下式横穴墓出土鉄器についての考察

新屋敷 久美子 . . . . . 1

南部九州における中世瓦質土器の蛍光 X 線分析

黒木 梨絵 . . . . . 7

植物質資料からみた南部九州

— 天神段遺跡を中心に —

深川 祐子 . . . . . 19

全点ドット調査の有効性と問題点

— 1970年代から1990年代の調査を中心に —

立神 倫史 . . . . . 33

宮ノ上遺跡の縄文時代後期前半の土器群について

長野 眞一 . . . . . 47

大隅地域における古墳に関わる祭祀遺跡

中村 耕治 . . . . . 53

郷土教育と考古学

— 相田日出雄の埋蔵文化財を活用した教育実践から学ぶこと —

吉元 輝幸 . . . . . 65

## 《資料紹介》

南部九州における古代のカマドに関する覚え書き

上床 真 . . . . . 77

平成26年度年報 . . . . . 85

---

---

# 南部九州における古代のカマドに関する覚え書き

上床 真

The Memorandum on the stove of nara-heian period in southern Kyushu ancient

Uwatoko Makoto

## 要旨

これまで、南部九州からは古代におけるカマドはほとんど発見されていない。それに対して、屋外炉や掘立柱建物内に炉がみられる場合もみられる。これらについて、集成し若干の検討を行った。その結果、古代における生活の一端を垣間見ることができた。

キーワード 古代（8～10世紀） 集落 カマド・炉・移動式カマド・軽石集積

## 1 はじめに

全国的にみて、古代<sup>1)</sup>の堅穴住居跡<sup>2)</sup>には「カマド」が設置されることが多い。ある報告書では、「カマドのな

い堅穴住居」が特別なものとして扱われている場合もみられる。

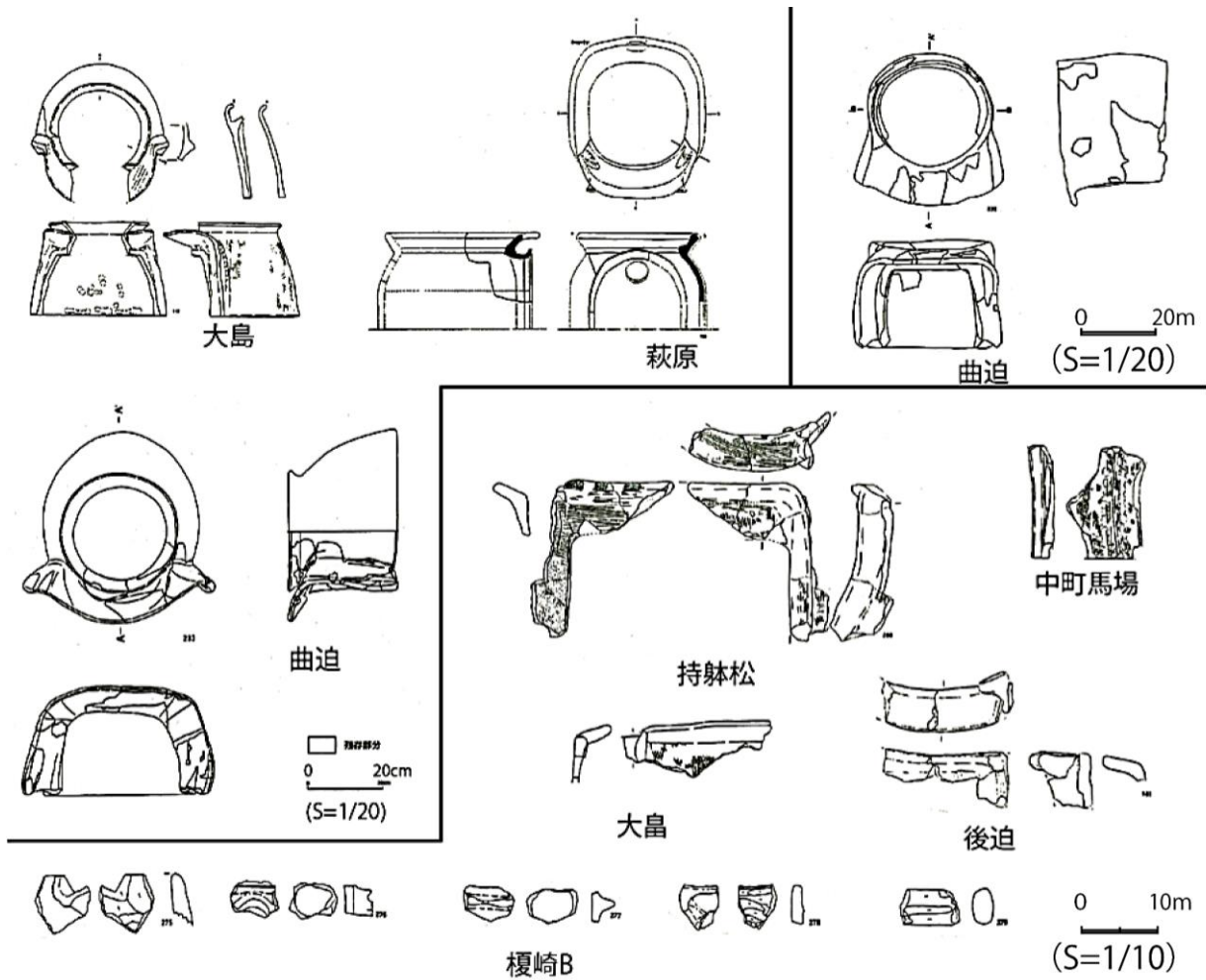


図1 移動式カマド

第1表 カマド関係遺跡一覧表（その1）

カマド形土器					
No.	遺跡名	所在地	遺物名	備考	文献
1	萩原	始良市平松原萩原	移動式カマド	県内初の事例。完形に復元。	町(1)1978
2	後迫	曾於郡大崎町横瀬字後迫			埋セ(66)2003
3	曲迫	霧島市溝辺町麓字曲迫		2点が完形品	埋セ(64)2004
4	大島	薩摩川内市東大小路町			埋セ(80)2005
5	中町馬場	薩摩川内市里町村西字中町馬場		離島では唯一の事例	村(2)2004
6	安茶ヶ原	いちき串木野市市来町川上字南安茶ヶ原中			埋セ(118)2007
7	大島	出水市野田町下名字大島			町(1)2006
8	持鉢松	南さつま市金峰町宮崎字持鉢松		現状での薩摩における最南端例。	埋セ(120)2007
9	榎崎B	鹿屋市郷之原町字榎崎	不明遺物	不明遺物として記載。現状での大隅における最南端例。	埋セ(4)1993
軽石集積					
No.	遺跡名	所在地	遺構名	備考	文献
1	踊場	曾於市財部町南俣字踊場	軽石集積	1基 被熱なし(他に「礫集積」が2基あり)	埋セ(71)2004
2	高篠	曾於市財部町南俣字高篠	軽石集積遺構 1~5	5基 土器器が出土 4・5は掘立柱建物内。軽石集積5から鍛造剥片検出。	埋セ(71)2004
3	宮尾	鹿児島市石谷町字宮尾	土器集中遺構	大小の土器器壘2点・礫出土。被熱。	埋セ(73)2004
4	下永迫A	日置市伊集院町下谷口字下永迫		隣接して堅穴遺構あり	埋セ(72)2004
5	上ノ平	日置市伊集院町下神殿字上ノ平		ピット内と地面に積んだものあり 被熱なし	埋セ(70)2004
6	桐木	曾於市末吉町通山字桐木		4号建物中に軽石を伴う焼土あり	埋セ(90)2005
7	常磐原	鹿児島市(郡山町)郡山字常磐原	焼土遺構	焼土粒子・赤色に焼けた軽石が散布。土器器片を伴う。	町(3)2003
8	建山	曾於市大隅町中之内字建山	軽石集積	8号掘立柱建物内にあり、軽石製品(支脚)	埋セ(152)2010
9	唐尾	曾於市末吉町諏訪字唐尾	軽石集積	掘立柱建物内にあり、軽石製品(支脚)	埋セ(127)2008
鍛冶炉					
No.	遺跡名	所在地	遺構名	備考	文献
1	鍛冶屋馬場	薩摩川内市平佐町字鍛冶屋馬場	鍛冶炉 1~5	古代(10世紀中頃)	埋セ(39)2002
2	持鉢松	南さつま市金峰町宮崎字持鉢松	土坑2	鍛冶炉の可能性あり	町(10)1998 ・埋セ(120)2007
3	橋牟礼川	指宿市十二町字下里・橋牟礼		8世紀。堅穴住居内	市(21)1996
4	犬ヶ原	日置市東市来町伊崎田字犬ヶ原		11~12世紀	埋セ(50)2003
5	高篠	曾於市財部町南俣字高篠	焼土・軽石集積遺構	9世紀	埋セ(71)2004

しかし、鹿児島県で発見される古代の堅穴住居跡には「カマド」が設置されている場合はほとんどなく、地床炉すら確認されないものも少なくない。

「カマド」が設置された例は、大坪遺跡(出水市)・大島遺跡(薩摩川内市)の2か所に過ぎない(県埋セ 2005 ①・②)。ただし、「移動式カマド」と呼ばれる遺物は数か所での発見例があり、近年の発掘調査数の増加に伴って事例が増加している。

## 2 研究略史

以下にそれぞれの鹿児島県内の資料を中心とした研究の略史を述べる<sup>3)</sup>。

### ① 発掘調査・報告書

カマドは、上ノ城跡(南さつま市)で中世のものがまず最初に確認され(加世田市教委 1980)、続いて加栗山遺跡(鹿児島市)(県教委 1981)、平泉城跡(伊佐市)(大口市教委 1982)、上加世田遺跡(南さつま市)(加世田市教委 1985)などの城郭関連遺跡において、数年のうちに各地で中世のカマドが発見された。

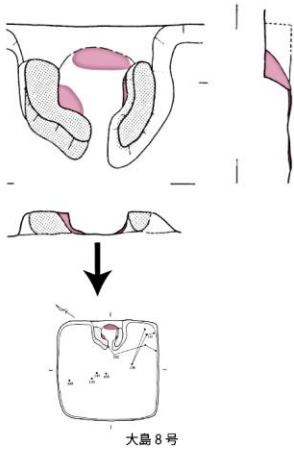
その後も、中世以降のカマドが確認される中、古代のカマドが確認されない状況が続いた。このような状況の中、1999年度の調査で、大島遺跡(薩摩川内市)と大坪遺跡(出水市)の両遺跡において古代のカマド付堅穴住居が確認され、注目を浴びた。ただし、これ以降、新たな確認例は現在のところみられない。

第2表 カマド関係遺跡一覧表（その2）

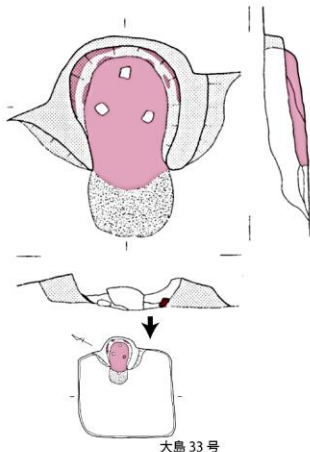
カマド・炉等の遺構					
No.	遺跡名	所在地	遺構名	備考	文献
1	大坪	出水市美原町・黄金町字大坪ほか	造りつけカマド	カマド付き竪穴住居。8世紀後半	埋セ(79)2005
2	大島	薩摩川内市東大小路町字大島		カマド付き竪穴住居。8世紀代のもの2軒	埋セ(80)2005
3	大島	薩摩川内市東大小路町字大島	住居跡3号・6号	地床炉(3号:9世紀中葉・6号:9世紀後葉)	埋セ(80)2005
4	仁田尾中B	鹿児島市石谷町字仁田尾中	配石炉2基・焼土	石組み炉2基・地床炉(モモ核出土)	埋セ(110)2007
5	常盤原	鹿児島市郡山町字常盤原	焼土遺構	地床炉	町(3)1995
6	川上城(県調査分)	鹿児島市川上町字加栗山	方形土坑 5・6・8・9	方形土坑 5・6 は炭化物。方形土坑 8・9 は弱被熱痕(地床炉か)	埋セ(176)2013
7	堀之内	薩摩川内市青山町字堀之内	竪穴状遺構	地床炉・10世紀前半	県・公財(2)2014
8	柵城跡	いちき串木野市上名字門前	土器集中遺構8	地床炉。竪穴遺構内。9世紀前葉。	埋セ(155)2010
9	市ノ原(第3地点)	日置市東市来町湯田字上市ノ原・下市ノ原・瀬戸ノ口	焼土跡7	土師器鉢・甕、黒色土器碗。石組炉か?。10世紀前半	埋セ(140)2009
10	西原	日置市伊集院町郡字西原	焼土土坑	礫・土師器	埋セ(58)2003
11	山神	霧島市溝辺町麓字山神	炉跡	地床炉・掘立柱建物内。9世紀中葉	県(7)1977
12	北麓原D	霧島市溝辺町麓字横大道	焼土	地床炉・焼土1は掘立柱建物内検出で炉壁あり。カマドか	埋セ2011(168)
13	外園	始良市船津字外園	土坑	竪穴状遺構SI1(Ⅶ区)に隣接。8世紀後葉～9世紀初頭	市(3)2012
14	石打	始良郡湧水町川西字石打	2地点4基 ・3地点4基	炉内上部から土師器甕・安山岩礫など出土。被熱。	町(4)1999
15	猪ノ丸	始良郡湧水町恒次字猪ノ丸	配石遺構	砂岩礫十数個。被熱	町(3)2003
16	中尾立	霧島市福山町福沢字中尾立		4号建物内にカマド状遺構あり・他は地床炉。10世紀前半	町(2)1994
17	柵木原	霧島市隼人町内字柵木原	第1号住居址	地床炉。9世紀中頃	町2000
18	橋牟礼川	指宿市十二町字下里・橋牟礼		地床炉・掘立柱建物内。9世紀前葉。	市(16)1994
19	橋牟礼川	指宿市十二町字下里・橋牟礼	竪穴住居1・2・4	竪穴住居1に地床炉、竪穴住居2・4に鍛冶炉。8世紀後半	市(16)1994
20	敷領	指宿市十町字弥次ヶ湯	竪穴住居	地床炉。8世紀後半	市(25)1997
21	小中原	南さつま市金峰町大字新山小字小中原・入木田堀・町之追	方形竪穴	地床炉。8世紀代	埋セ(142)2009
22	拾石畑(松木園)	南さつま市金峰町大字尾下字拾石畑	竪穴遺構	地床炉・10世紀前半	上床2000・2015
23	小園	南さつま市金峰町浦之名字小園	地床炉1	古代 礫・被熱・土師碗・土師甕	町(11)2000
24	持鉢松	南さつま市金峰町宮崎字持鉢松	土坑2	鍛冶炉の可能性あり	町(10)1998・埋セ(120)2007
25	芝原	南さつま市金峰町宮崎字芝原	炉跡	地床炉・不定形	埋セ(170)2012
26	建山	曾於市大隅町中之内字建山	軽石集積	8号掘立柱建物内にあり、軽石製品(支脚)	埋セ(152)2010
27	高古塚	曾於市大隅町岩川字高古塚	焼土・灰土	掘立柱建物内にあり、「焼土」と「灰土」がほぼセット	埋セ(73)2004
28	上ノ原	曾於市末吉町諏訪方字田方	焼土	竪穴遺構に隣接	町(9)1994
29	桐木・耳取	曾於市末吉町諏訪方字桐木	掘り込みのある焼土域	4号掘立柱建物跡のほぼ中央に位置。東側に軽石集積を伴う。	埋セ(91)2005
30	踊場	曾於市財部町南俣字踊場	1～5号焼土	1号掘立柱建物:1号焼土、7号掘立柱建物:3～5号焼土	埋セ(71)2004
31	高篠	曾於市財部町南俣字高篠	焼土1～28	集積1・掘り込みの上面に角礫が集中・被熱なし・甕出土	埋セ(71)2004
32	唐尾	曾於市末吉町諏訪方字唐尾	軽石集積	掘立柱建物内にあり、軽石製品(支脚)	埋セ(127)2008
33	天神段	曾於郡大崎町野方字天神段	炉跡1基・焼土跡2基	炉跡からは土壁塊と軽石加工品破片が出土	県・公財(3)2015
34	中野西(根木原A)	鹿屋市根木原町字中野西	11号土坑	古代のかまどの可能性あり	埋セ(76)2004
35	榎崎A	鹿屋市郷之原町榎崎	円形土坑	焼土のある(集石状)円形土坑(礫・土師器・粘土・焼土あり)	県(63)1992
36	鳥居ヶ段	鹿屋市輝北町中平房字鳥居ヶ段	竪穴状遺構	地床炉・10世紀前半	町(1)1998
37	大島	薩摩川内市東大小路町字大島	炉	配石を持つ屋外炉。時期は検出層からの判断。	埋セ(80)2005
38	柵城跡	いちき串木野市上名字門前・柵鼻・大堂庵	炉状遺構	山腹部で6基、1～5が中世で6が古代か。L地区で1基。底部部Q区13基。	埋セ(155)2010



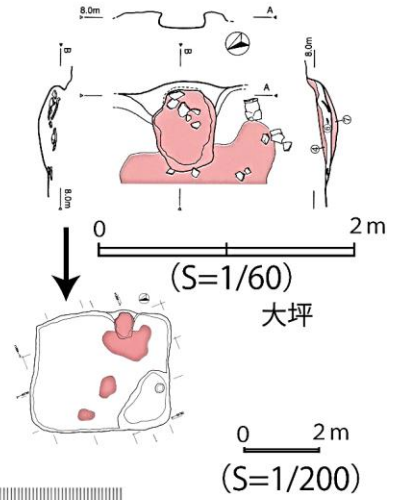
つくりつけカマド



大島 8号



大島 33号



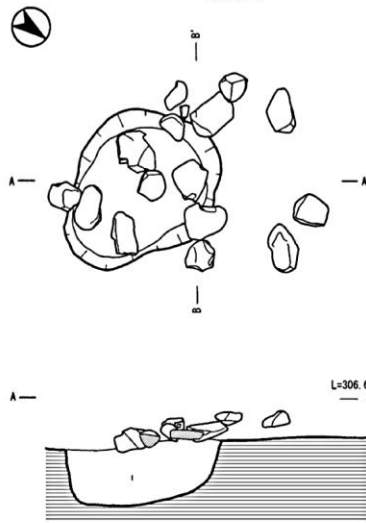
大坪

0 2m  
(S=1/200)

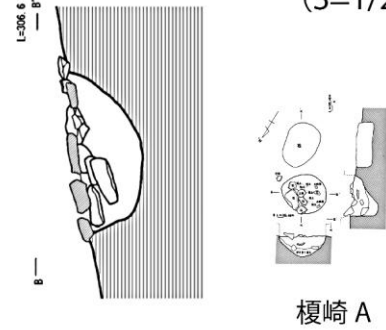
炉状遺構



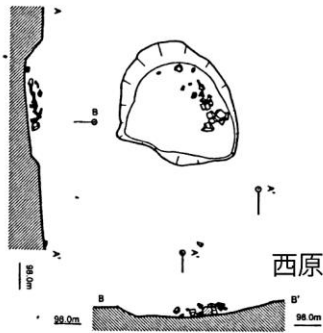
北麓原 D



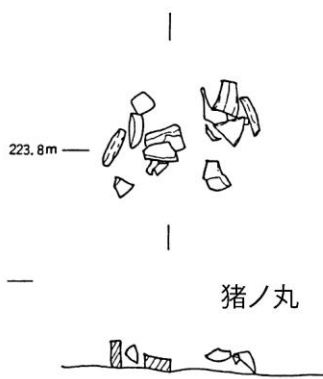
高篠



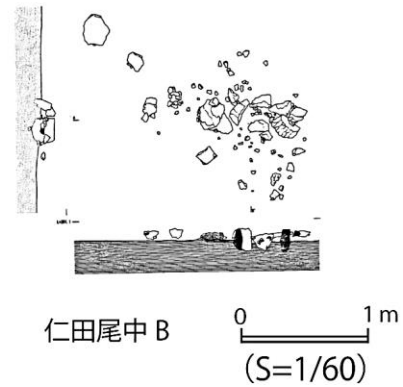
榎崎 A



西原



猪ノ丸



仁田尾中 B

0 1m  
(S=1/60)

図3 つくりかけカマド・炉

している(藤井 2012)。その結果、甑の流入形態の様相から、カマドについても「薩摩は8世紀頃に肥後から、肝属平野は7世紀頃に日向から」というそれぞれの流入形態を想定した。

3 カマド・移動式カマド・炉について

県内各地の遺跡から、「移動式カマド」と呼ばれる遺物が出土している。これまで県内では、数例しか発見されていないものである。

本県出土の「移動式カマド」は古代に該当するものであるが、全国的な視点からみると、カマド形土器は古墳時代から存在することになっている。さらにカマド遺構も

古墳時代に出現し、普及するという事になっている。翻って、鹿児島県内の事例をみると古墳時代にはカマドに関する遺構・遺物は発見されていない。そこで、ここでは県内において古代から散見されるようになるカマドに関する遺構（地床炉を含む）・遺物について状況をつかみその傾向を明らかにするために集成を行う。

集成の結果、カマド形土器については、現在のところ県内では9か所で発見されていることが明らかとなった。内訳は、薩摩国5か所、大隅国3か所、日向国1か所である<sup>6)</sup>。

古代の炉状遺構は、カマドの可能性のあるものを含めて34か所で発見されている。これらの中には、炉壁が存在した可能性があるもの（中尾立・北麓原D・中野西）や、礫が集中して検出されており「石組炉」の可能性のあるもの（仁田尾中B・市ノ原3・中尾立・榎崎A）が観察されている。

特に、焼土の周囲に礫が積まれているものは、カマドの可能性があるので前向きな検討も可能であろう。

建物との関係を見ると、竪穴住居に伴うものは12か所で、掘立柱建物に伴うもの8か所となっており、建物に伴わず単独で存在するもの14か所であった。特に、高古塚遺跡（曾於市）では掘立柱建物内で焼土とともに「灰土」が確認されており、その用途・性格等については注目される。

また、古代には軽石集積（焼土の周囲に軽石が存在するものや、軽石が集積された遺構）も存在する。近年になって、高篠遺跡で注目された遺構であるが、この遺構

もカマドもしくは鍛冶に関連する遺構との指摘がある。そこで、集成を行った結果9箇所となった。このうち5か所が曾於市内であり、この地域で顕著なことが想定されるが、薩摩地域においても4か所で発見されていることから、地域的な偏りではない可能性もある。ただし、軽石集積の中には、被熱痕跡のみられない遺構も存在するので、今後検討が必要である。また、高篠遺跡の軽石集積5から鍛造剥片が検出されているので、鍛冶関連遺構としての検討も今後必要であろう。

なお、鍛冶屋馬場遺跡（薩摩川内市）等では、古代の鍛冶炉が発見されているが、形態のみでは通常の炉と大きな違いはみられない。今後は、炉状遺構が発見された場合は必ず鍛造剥片の有無を確認するような準備が必要であろう。

遺構の遺物のありかたをみた場合、カマド形土器とカマド状遺構の両方が発見されている遺跡は大島遺跡（薩摩川内市）だけである。このことから、両者は共存するものでなく別個の性格を持つ可能性が考えられる。稲田孝司によれば、カマド形土器は『延喜式』などにみられる「韓竈」にあたるもので、実用よりも祭祀的な性格が強いという（稲田 1978）<sup>7)</sup>。

例えば、曲迫遺跡（霧島市）のM14区ではカマド形土器が発見されている。このM14区からは、性格不明の6基の土坑も発見されている。これらの土坑のうち2基の遺構内から、土師器杯の完形品が出土していることから祭祀的な性格が想定される。また、遺跡の全体的な傾向としては、杯・碗は多いが甕は少ない。ただし、カマド

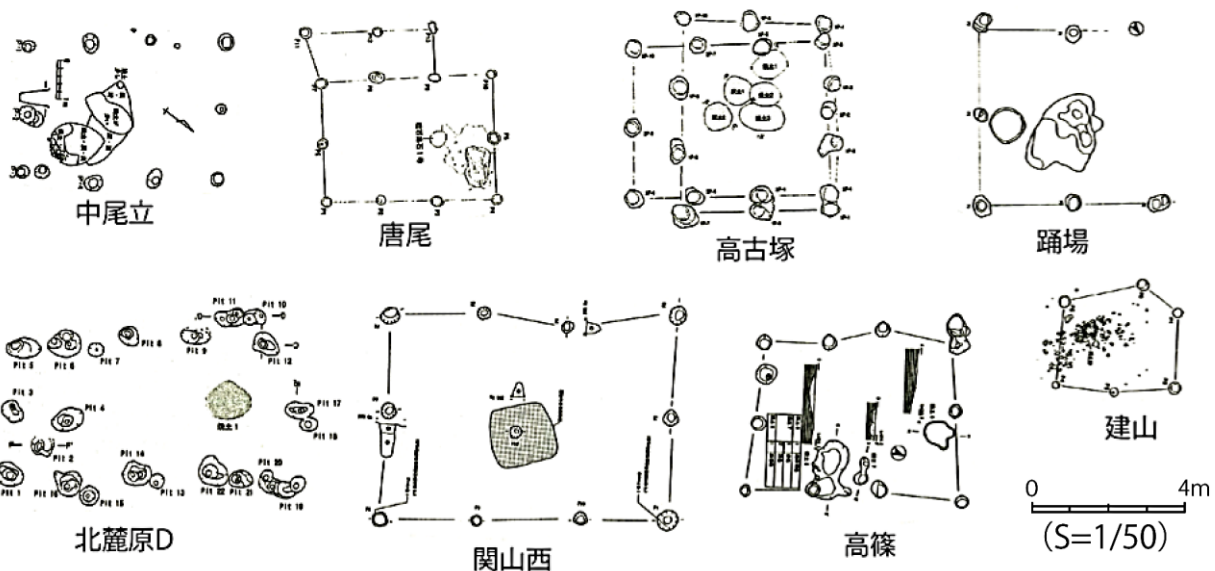


図4 炉を有する掘立柱建物



形土器とセットになる程度の量は存在する。さらに、甕に限定すると、包含層中からの出土量よりも土坑埋土内からの出土量の方が充実している。この事実は、カマド形土器の特殊な機能を想起させるものといえよう。

また、県内出土のカマド形土器の表面を観察すると、煮炊きの痕跡があまりなく、あったとしても煤・炭化物の付着が弱いという特徴があるので、日常用ではない可能性がある。

ところで、山口遺跡（薩摩川内市）では、カマド・炉が確認されていないため第2表中にはないが、「甗」が出土している。カマド・炉に伴って甗が出土している遺跡としては、大島遺跡（薩摩川内市）・仁田尾中B遺跡（鹿児島市）などがある。この現象は、単に「カマド・炉が存在したが検出することができなかった」のか「カマド・炉を用いずに甗を使用したのか」という問題<sup>8)</sup>があるが、現状では今後の課題としておきたい。

#### 4 おわりに

以上のように、カマド・炉などについて思いつとところを記述した。

前稿（上床 2007）と変わるところは多くないが、新事例（榎崎 B 遺跡などの資料）を追加することができた。

今後は、集落に関する他の資料（焼塩土器・紡錘車・土錘）なども含め検討していく必要性を感じている。次回への課題としたい。

本稿を起こすのにあたって、以下の方々にお世話になった。ご芳名を記して、感謝の意を表したい。

有川孝行 池畑耕一 岩永勇亮 海老春樹沙 黒川忠広  
佐藤亜聖 重久淳一 関明恵 玉利浩実 堂込秀人  
徳永愛雄 永濱功治 中村有希 抜水茂樹 廣栄次  
藤井大祐 前迫亮一 真邊彩 宮下貴浩 宗岡克英  
湯場崎辰巳

#### 【 註 】

- 1) 「古代」の定義には様々なものがあるが、ここで取り扱う「古代」は、おおむね8世紀から10世紀を対象とする。
- 2) これまで「竪穴住居」とされていたが、近年になって「竪穴建物」とする例が増加している。例を挙げれば、『発掘調査のてびき』（文化庁・奈文研 2010）でも、「竪穴建物」としている。また、関和彦も竪穴「住居」という用語について疑問を投げかけている（関 1994・2000）。  
様々な意見もあるところではあるが、本稿においては現状での一般的な名称である「竪穴住居」を用いることとする。
- 3) 全国的な研究については、稲田（稲田 1978）や外山（外山 1992）によるものなどがあるが、紙幅の都合もあるので今回は触れない。

4) 古墳時代のカマド及び移動式カマドは現在のところ未確認である。

5) ここでは鍛冶炉についても、通常の炉の形状との類似性から、その研究史についても触れている。

なお、鍛冶・製鉄に関する「金属文化」に関しては、分析も含めると研究の蓄積がある程度はあるが、遺構に関してはほとんどない。また、鉄器を中心とした金属器そのものの考古学検討も川口によるもの（川口 2008）がある程度である。

6) 現在、鹿児島県となっている地域のうち、志布志市・曾於郡大崎町・曾於市の一部（末吉町・財部町・大隅町月野）を旧日向国として扱った。

7) 稲田孝司によると、以下の通りである。

「正倉院文書や延喜式にみられる『韓竈』あるいは「辛竈」がこれまで述べてきた竈形土器をさすものであることは、延喜主計寮式に『贄土師竈』、貞観儀式に『土師韓竈』『贄土師物韓竈』とあって、まずまちがいのないところである。韓竈がしばしば一具・二具とかぞえられ、あるいは竈・竈子・甗がつらねて記されることも、竈形土器とその専用釜および甗の組合せの実際とよく合致している。加えて延喜主計寮式の『贄土師……竈二口。高一尺五寸 竈子十口。受一斗 甗十口。受六升』という法量の記載も、竈形土器のそれにほぼ妥当なものである。」

8) 未使用の遺物としての甗が出土するのみという考え方もある。

#### 【参考文献・報告書】

- 始良町教育委員会 1978『萩原遺跡』始良町発掘調査報告書（2）  
有川孝行 2004「まとめ」『油須木城跡』郡山町埋蔵文化財発掘調査報告書（4） 郡山町教育委員会  
稲田孝司 1978「忌の竈と王権」『考古学研究』25-1 考古学研究会  
今村敏照・中村守男 1994「大口市馬場A・辻町2遺跡におけるカマド跡」『大河』第5号 大河同人  
上床真 2000「薩摩・大隅の古代の竪穴遺構—竪穴式住居の終末に関する一考察—」『Fragments』第2号 さくら研究会  
上床真 2006「薩摩・大隅の掘立柱建物に関する若干の検討—古代掘立柱建物の集成・分類を中心として—」『Archaeology from the South』鹿児島大学考古学研究室 25周年記念論集 鹿児島大学考古学研究室 25周年記念論集刊行会  
上床真 2007「カマド・鍛冶関連の遺構・遺物について」『持躰松遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(120)  
上床真 2009「鹿児島県の古代に関する覚え書き —ここ数年の成果を中心として—」『南の縄文・地域文化論考 南九州縄文通信』No.20 新東晃一代表還暦記念論文集 南九州縄文研究会  
上床真 2015「薩摩・大隅における古代竪穴遺構の再検討」『Archaeology from the South』III 本田道輝先生退職記念論文集 本田道輝先生退職記念事業会  
小田和利 1994「北部九州のカマドについて」『文化財学論集』文化財学論集刊行会

鹿児島県教育委員会・公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター2014『堀之内遺跡』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(2)

鹿児島県住宅供給公社1981『小田遺跡(隼人塚団地B地点)』鹿児島県立埋蔵文化財センター1993『榎崎B遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(4)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2002『鍛冶屋馬場遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(39)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2002『犬ヶ原遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(50)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2002『山ノ脇遺跡・石坂遺跡・西原遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(58)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2003『東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(64)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2003『後迫遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(66)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2003『上ノ平遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(70)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2003『下永迫A遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(72)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2003『中野西遺跡・松山田西遺跡(根木原遺跡A地点)』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(76)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2004『坪遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(79)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2004『大島遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(80)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2006『仁田尾中A・B遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(110)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2007『持鉢松遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(120)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2007『唐尾遺跡・菅牟田遺跡・中之迫遺跡・高古塚遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(127)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2009『市ノ原遺跡第3地点』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(140)

加世田市教育委員会1980『上ノ城跡』加世田市教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

加世田市教育委員会198『上加世田遺跡-1』加世田市教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

狩野敏次2004『かまど』ものと人間の文化史117 法政大学出版局

川口雅之2004「鹿児島県における古代の鍛冶遺構について」『研究紀要・年報 縄文の森から』第2号 鹿児島県立埋蔵文化財センター

川口雅之2008「鹿児島県における古代・中世鉄器の基礎的研究」愛媛大学法文学部考古学研究室編『下條信行先生愛媛大学退任記念献呈論文集 地域・文化の考古学』下條信行先生

退任記念事業会

栗野町教育委員会1995『猪ノ丸遺跡』栗野町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

郡山町教育委員会2003『常磐原遺跡』郡山町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

佐藤重聖2000「炉状遺構についての一試論」『日輪城(恒吉城)跡』大隅町埋蔵文化財発掘調査報告書(20) 大隅町教育委員会・(財)元興寺文化財研究所

杉井健1993「竈の地域性とその背景」『考古学研究』40-1 考古学研究会

関和彦1994『日本古代社会生活史の研究』校倉書房

関和彦2000「古代びとの建物仕様-堅穴「住居」論批判-」『住まいと住まい方-遺跡・遺物から何を読み取るか』帝京大学山梨文化財研究所 研究集会報告集3 岩田書院

田中昌樹2003「北陸地域の『竈形土製品』について」『富山考古学研究』第6号 財団法人富山県文化振興財団・埋蔵文化財調査室事務所

近澤豊明1992「竈形土製品について」『長岡京古文化論叢Ⅱ』中山修一先生喜寿記念事業会

出口浩1994「配石炉について」『川上城跡』鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(18) 鹿児島市教育委員会

外山政子1992「炉かカマドか-もう一つのカマド構造について-」『研究紀要』10 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団福山町教育委員会1994「中尾立遺跡」『福山町埋蔵文化財発掘調査報告書』(2)

藤井大祐2012「大隅・薩摩の諸勢力と対外交渉」第15回九州前方後円墳研究会北九州大会資料集『沖ノ島祭祀と九州諸勢力の対外交渉』

文化庁記念物課・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所編2010『発掘調査の手引き』一集落遺跡発掘編- 同成社

#### 【追記】

脱稿後に、敷領遺跡(指宿市)において、平地建物内から「カマド」及び「石組炉」が検出されていることを知った。この遺構は、紫コラ(貞観16【874】年の開聞岳噴火による火山堆積物)によって埋没した被災住居である。また、驚くべきことに「成川式土器」の甕も共伴している。つまり、①9世紀第3四半期 ②カマドの南限 ③成川式土器の下限 という3つの重要な点が指摘される事例であり、本稿で述べた内容について再検討を要する情報である。今後の課題としておきたい。

(報告書)

指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(55)2015『敷領遺跡』指宿市教育委員会

---

鹿児島県立埋蔵文化財センター

研究紀要・年報 **縄文の森から** 第8号

発行年月 2015年10月

編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-48-5811

E-mail [maibun@jomon-no-mori.jp](mailto:maibun@jomon-no-mori.jp)

URL <http://www.jomon-no-mori.jp>

印刷 有限会社 国分新生社印刷

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久627-1

---

Bulletion of Kagoshima  
Prefectural Archaeological Center

# From JOMON NO MORI

## No.8 CONTENTS

---

---

### 《Study Note》

Ironware excavated from Underground Carridor-style Brial Chambers in the Kofun jar, Kimotsuki Plain  
Shinyashiki Kumiko

X-ray fluorescence analysis of Medieval pottery in Southern Kyusyu, Japan  
Kuroki Rie

Ancient South Kyusyu considered from vegetable matters with focus on Tenjindan site  
Fukagawa Yuko

Validity and Problems of All Dot Excavation  
Tategami Michifumi

Miyanoue site' s pottery group in the first half of the end of the Jomon  
Nagano Shinichi

The Ritural site to Be Affected Tumulus In Osumi Aria  
Nakamura Kouji

Education for local patriotism and archeology  
Yoshimoto Teruyuki

### 《Materials of Archaeological Research》

Introducing Chinaware from Southeast Asia excavated in Kamizuru site by the Manose river lower stream  
Uwatoko Makoto

---

Annual of Kagoshima Prefectural Archaeological Center of the 26th year in Heisei

---

---

Kagoshima Prefectural Archaeological Center  
October 2015

研究紀要・年報

縄文の森から

第8号

二〇一五年  
鹿児島県立埋蔵文化財センター